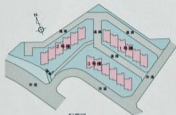


県営鳴石アパート

この施設は気仙大工の里に建設された、若手賃貸では初めての木造アパートである。気仙杉の積極的活用、伝統的技術の継承、環境との共生、地域社会への移行、林業の復活、地域経済への波及等を目指した施設造りであった。

敷地は、若手県住宅供給公社が3段に造成して分譲したところで、南面の1段目は戸建の住宅が、2段目には陸前高田市の市営住宅（木造2階戸建）があり、3段目の北側の土地が敷地で南側が低く開けていた。20世帯が条件で、日照を考慮して全戸真南を向く様に計画し、長屋形式にして3棟に分割した。敷地の形状に合わせ階平面に計画することで各戸の独立感が得られた。また、必然的に切り妻屋根がずれることになり独特の外観となった。

建物は地元の気仙杉を使用し伝統的工法として、外観仕上げにも木をそのままさせる様に隣地境界及び隣棟間隔（延焼の恐れ）を確保し、下見板張りと漆喰壁の日本家庭風のデザインとした。



配置図

	1号棟	2号棟	3号棟	合計
敷地面積	913㎡	1,782㎡	1,155㎡	3,850㎡
建築面積	308.05㎡	308.05㎡	316.31㎡	932.41㎡
延べ面積	496.85㎡	496.85㎡	532.77㎡	1,526.47㎡
構造	木造2階建	木造2階建	木造2階建	—
軒高	6.240m	6.240m	6.580m	—
最高高さ	7.423m	7.423m	8.820m	—



道路東側から



2号棟東から



2号棟西から



全景

県営鳴石アパート3号棟



3号棟2階建て部分平面図



3号棟平面図

3号棟の一部に大断面集成材パネル（120*910*5,800）造の共同住宅（4世帯）がある。杉の間伐材を集成して大断面化することで頑強な造りとし、今まであまり価値の無かった小径木を大量に使用することで、山に手が入る様になることこの工法の普及を期待しての設計である。

工端加工が条件となるが、建て方終了時点で内外部とも仕上げとなり工期短縮と人件費の削減になる。

また、この材は一時間耐火の大径認定も取得済みであり防火地域を除き延焼の恐れを考慮する必要がなくなる。



3号棟屋外階段



集成材パネル建て方



大断面集成材パネル（120*910*5800）



3号棟集成材パネル建て方完了



集成材パネル建て方



3号棟2階建て部分北西側